

会議記録書	
会議名	第４７回草津市図書館協議会
日時	令和 ８年 ７月 ２日（木） １５時３０分～１７時
場所	草津市立図書館 ２階 会議室
出席者	高山会長、外滝副会長、木村委員、明山委員、木津委員、出呂町委員、澤村委員、藤内委員、松嶋委員、事務局（二井館長、坂居副館長、大西副館長、岸本主任）
傍聴者数	０名
記録作成者	岸本主任

1. 開会挨拶

皆さんこんにちは、本日はお忙しい中、またお足元の悪い中、図書館協議会にお集まりいただきましてありがとうございます。令和８年度第１回目の図書館協議会です。今年度から新たに明山委員、出呂町委員、藤内委員にご就任いただきました。どうぞよろしくお願い申し上げます。後ほど自己紹介をお願いいたします。

さて、昨年度の７月１日に「草津市読書のまち推進計画」が施行されてちょうど１年となりました。「全世代・全市域・つながり」の３つを基本方針に計画に掲げている４４本の事業のうち２７本が図書館事業、そのうちの７本が新規事業、４本が拡大事業として、職員が一丸となってこの一年間頑張ってきました。本日はその結果と次年度計画についても報告させていただき、委員の皆様から忌憚らない御意見を賜れたらと思っております。

誠に簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

2. 議題

（１） 第４６回図書館協議会議事録について

- ・第４６回図書館協議会議事録について、ご承認をいただけるかどうか。

【委員意見】

- ・特になし。

（２） 令和７年度図書館アンケートの実施について

- ・令和７年度図書館アンケートの全体説明（資料１）

【委員意見】

- ・アンケートの結果はおおむね良好である。自由記述欄に寄せられた意見への回答で、多くのものに「カウンターや電話でご相談ください」となっているが、毎年同じような意見が寄せられているなら、例えば、検索機の使い方がわからない人への対応として、「カウンターや電話でご相談してください」と案内するだけでなく、ポップを作成するなど、自分で解決できるよう手助けをする対応を検討すべきである。

- ・小学生に図書館見学を実施していると思われるが、大人に対しても実施してはどうか。図書館の使い方を説明し、利用しやすいと思わせることが必要である。
- ・利用者の年代分布をみると若い人の割合が低いと考えられる。本館、南館それぞれの利用年代分布を把握してほしい。また、図書館には若い人も使える学習スペースがあるが、その存在の認知度が低い可能性がある。若い人に利用してもらい、来館のきっかけを作るために学校を通じた情報発信が必要である。

→本館、南館それぞれの利用年代分布を把握することは可能である。

- ・回答者の年代は60代以上が多いようだが、実際に図書館の様子を見ても60代以上が多い。若い人が本を読む機会が減っていると思われる。こどもたちは読み聞かせをすると喜んで聞く。保育士が季節の本を読んであげたいと思って図書館に来て時季ものは借りられていることが多く、不足しがちである。図書館から届けてもらっている「あおばなブック」には季節の本が入っているのでありがたい。
- ・若い人が本を読まないということで、聞いたところでは、学校図書館では本屋大賞を参考にして本を購入しているとのことである。中高生の学校図書には、コミックを小説化したものが多く置かれているようで、私たちがこどもの頃に親しんできた作品はあまり手に取ってもらえていないようだ。
- ・中学校では、コミックを小説化した書籍が人気である。司書が月に2度学校に来てくれて、選書等を行ってくれている。自校の図書室は離れているため、校内の複数箇所に本を設置するように工夫した。
- ・5年前、10年前と比較して何か感じることはあるか。

→読書のまち推進計画を契機に、図書館のハード面を大きく更新した。長年置いていた普遍的に魅力のある本は古くなったため買い替えを行った。UVカットフィルムの貼付により明るい館内になった。絵本コーナーの絨毯や展示書架なども新設された。パスポート型読書手帳を配布し、キッチンカーの呼び込みも行った。

- ・図書館内の展示にも季節性があり、楽しい図書館である。他市と比較しても草津市立図書館には良い点が多い。
- ・滋賀県は全国で貸出冊数2位と聞いている。図書館業界では職員が図書館を盛り上げる方法や運営の意識が重要とされる。草津市立図書館の職員はよく努力している。
- ・屋外読書スペースや館外スペースの活用は良い取り組みである。図書館入口での読み聞かせは、入館者全員が目にするため効果的である。イベントの認知にもつながっている。
- ・草津市立図書館の司書は不断に能力向上を図っており、ブックトークも実施している。おはなし研究会が学校の依頼を受けてブックトークを行った際は、紹介した本を学校で購入してくれている。小中学校は、図書館にブックトークの依頼をすれば、こどもたちに紹介したい本を知ることができるので、積極的に活用したらよいと思う。

(3) 読書のまち推進計画の進捗報告について

- ・読書のまち推進計画の進捗報告の全体説明（資料2、参考資料）

【委員意見】

- ・読み聞かせスキルアップ講座は保育士を対象にしているが、申し込み状況はどうか。
- 募集はまだであるが、幼児課と連携し実施予定。保育士不足に対応し、潜在保育士や復帰希望者も対象とする。前は約30人の申し込みがあった。
- ・絵本を読むのが苦手な保育士が意外に多い。「勉強はしたが実践不足」という声もある。読み聞かせの実践の場の提供が望まれる。
- 読み聞かせ技術を学べる講座を求める声が保育現場から寄せられている。
- ・「あおばなブック」において、こどもが破損した本をどうすればよいか。
- 破損本は基本的に個別対応である。大切に扱うことが望ましいが、破損を恐れて利用が減るのは望まない。プレッシャーを与えずに配慮が必要であると考えている。
- ・本は使用すれば傷むため、一定の傷みはやむを得ないと感じる。
- ・破損本は図書館で専用道具を用いて修理する必要があるため、利用者が自分で修理しない方がよいことは周知した方がよい。
- ・大人向けに、正しい本の修理方法を教えるのはどうか。
- 個人所有の本を修理したい方向けの講座としては検討できるが、図書館の資料は修理せずに返却してもらいたい。

(4) 令和8年度事業計画について

- ・令和8年事業計画の全体説明（資料3）

【委員意見】

- ・書店連携とはどのようなもので、今後の取り組みはどうか。
- 市内書店7店舗が集まり、書店と図書館は共に地域の読書環境を支える存在であるという認識を共有した。図書館と書店が互いにイベント情報の共有や広報を行う。昨年度の図書館主催の読書ポイント事業では、従来の小中学校図書館と市立図書館に加えて、市内書店で本を購入した場合にも、ポイントが付与されるという取り組みを行った。ポイントが貯まれば、草津宿本陣での浮世絵摺り体験やあおばなしおり、文具セットなどの景品に応募が可能。文具セットは書店協力のもと用意している。景品は毎年工夫しており、図書館開館40周年の際には、景品に少し予算が使えたので、立命館大学との連携でラボでの工作体験を行ったこともあった。
- ・ものづくり好きな市民は多数存在し、ポイント事業の景品を無償提供する市民もいると考えられる。商売目的でなく純粋に利用者に使ってもらいたいという市民もいるであろう。
- ・読書のまち推進事業費について、前年度に比べて予算が減少しているように見える。資料費が減っているのは気になる。全国的には資料費が増加しているが、購入冊数や貸出冊数は減少傾向にある。一冊あたりの本の単価上昇が理由と考えられる。
- 資料費は減らさないよう努めている。減少して見えるのは、サテライト機能を導入する施設数の減少によるもので、必要予算は確保している。

3. 意見交換・質疑

4. その他連絡事項

- ・滋賀県公共図書館協議会主催による「図書館協議会交流会」について